

小海町AI活用ガイドライン

令和7年9月
小海町

1 ガイドライン策定の背景と目的

小海町は人手不足や多様化・複雑化する町民ニーズ、高度化する行政サービスへの対応など、様々な課題に直面しています。このような状況の中でも、住民に最も身近な行政主体として、町民生活の質の向上、行政サービスの充実などを安定的かつ継続的に図り、町の持続可能な成長を実現していかなければなりません。そのためには、職員が行うべき業務を見極めながら、AIなどのデジタル技術を積極的に活用していく必要があります。

町民生活の質の向上のため、職員の業務効率化による行政サービスの充実などに大きな可能性を秘めているAIを、町民の信頼を得ながら正しく効果的に活用するための指針を、小海町AI倫理原則に基づき、ガイドラインとしてまとめました。

2 - 1 生成AIについて

AIに対して指示や命令文(以下、「プロンプト」という。)を与え、文章を生成することができる人工知能の一つで、人間の業務・作業をサポートするツールとして活用が期待されています。

従来のAIは、あらかじめデータを与え、特徴や傾向を学習させておくことで、入力されたデータの成否の判別等を行うものでしたが、生成AIは、プロンプトに対するテキストを対話形式で応答する点が、これまでのAIとは異なることに注目が集まっています。

2 - 2 生成AIの活用可能性とリスク

【活用可能性】

生成AIを適切かつ効果的に活用することで、文章作成、企画立案、情報収集など、比較的高度な業務でもサポートツールとしての活用が期待され、これまでにない形での生産性の向上や、深刻な人手不足などの地域課題の解決につながる可能性を秘めており、AI活用に向けた検討や取り組みを進めていく必要があります。

【リスク】

生成AIには、情報漏洩、著作権などの既存の権利の侵害、回答の不正確性などの問題が指摘されており、生成AIが生成した回答の根拠や妥当性を必ず職員が確認することが重要であり、町で活用するにあたっては、こうしたリスクへの対応が必要不可欠です。

3 基本方針

小海町におけるAI活用は、以下の基本方針に基づき実施します。

① 町民の利益とニーズの最優先

- AIの活用にあたっては、町民の利益とニーズを最優先とし、町民との対話を通じて現状や課題を把握し、行政サービスの改善と町民生活の質の向上を目指します。

② 人間中心のAI活用

- AIはあくまで補助的なツールとし、AIの出力結果については、必ず職員が根拠や妥当性を確認し、最終的な意思決定は責任を持って人間が行います。

③ 安全性・公平性の確保

- AIサービスの適切な利用を通じて安全性・公平性の向上を図り、偏見や差別のない公平な運用に努めます。町民のプライバシーや個人情報を保護し、関連する法令を遵守します。

④ AI活用の透明性の確保

- AIを活用するにあたり、AIがどのように機能し、判断や予測にかかる過程について、理解できるように努めます。また、運用方針や取り組み内容等を町民にわかりやすく説明し、信頼性と透明性の向上に努めます。

⑤ 職員の知識と能力の向上

- すべての職員のAIに関する知識・活用能力向上のため、継続的な教育・研修を実施し、正しい活用が行われるよう、安全かつ効果的な活用を推進します。

4 利用上のルール

AIの活用に当たっては、安全な利用環境の整備に加え、職員自身が有用性やリスクを理解し、ルールを守り、正しく安全に活用することが重要です。

ルール 1

• AIは補助的なツールであり、責任は人間である職員自身にあることを認識したうえで活用

ルール 2

• 研修を受けてから利用

ルール 3

• 個人情報等、気密性の高い情報は入力しないこと

ルール 4

• 著作権など、既存の権利を侵害することがないように十分注意し、確認すること

ルール 5

• AIが生成した回答の根拠や妥当性を必ず職員自らが確認

ルール 6

• AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、その旨を明記

ルール 1

AIは補助的なツールであり、責任は人間である職員自身にあることを認識したうえで活用

AIは間違った回答をすることがあることを理解し、あくまで補助的なツールとし、AIに指示するのも、回答結果を活用するのも、判断するのも最終的な意思決定は人間であり、責任は職員自身にあることを認識したうえで活用します。

ルール 2

研修を受けてから利用

AIを安全に使うためには、入力してはいけないものを入力しないなど、職員一人一人がルールを理解し、正しく使うことが大切です。そのためにも、利用する前に研修を受け、正しく安全に活用します。

ルール 3

個人情報等、気密性の高い情報は入力しないこと

AIは外部サービスであり、セキュリティ対策はサービス提供者に依存することから、機密情報などを入力すると万が一の場合、情報漏洩につながるリスクがあります。このことを踏まえ、下記の分類「A」は入力不可とし、安全性が確保された利用環境であれば、「B」までの情報を入力可能とします。

分類	情報資産の例	活用
A	個人情報、契約関係情報、訴訟、審査請求等に関する情報 等	×
B	内部通知、事案決定手続きを経していない企画資料、経營業務の事務手順や実績 等	安全性が確保された利用環境であれば○
C	公表を前提とする情報 等	○

ルール 4

著作権など、既存の権利を侵害することがないように十分注意し、確認すること

著作権保護の観点から、既存の著作物に類似する文章の生成につながるようなプロンプトを入力しないように注意する必要があります。また、回答を配信、公開等する場合、既存の著作物等に類似しないか入念に確認する必要があります。

単に他人の既存著作物、作家名、作品などの名称を入力するだけの行為は、必ずしも直ちに著作権侵害に該当するとは限りませんが、生成されたデータが、プロンプトに入力したデータの既存の著作物と同一又は類似している場合は、当該生成物の利用が当該著作物の著作権侵害になる可能性があるため、入力するプロンプトの内容には注意が必要です。また、画像生成についても、生成された画像は、著作権侵害のリスクがあり、使用する場合は、権利侵害がないこと等を必ず確認する必要があります。

※著作権だけでなく、特許権、個別の契約上の権利関係にも注意する必要があります。

※具体例

①AI出力前の確認

既存作品名等の直接入力を避ける。（○○（著名小説）の第一章を書いて、△△（キャラクター名）の画像を生成して 等）

②AI出力後の確認

類似性のチェック、専門家への相談（事業、企画の名称等の案作成(既存の商標・スローガンとの重複リスク)、イベントポスターのデザイン案の作成（既存デザインとの類似リスク） 等）

ルール 5

AIが生成した回答の根拠や妥当性を必ず職員自らが確認

AI が生成した回答は表現・言い回しが自然であるため、正しいと感じてしまいます。しかし、最新の情報を反映していなかったり、偏った価値観などが反映されてしまうことがあるなど、必ずしもその内容が「正確」とは限りません。AIの出力結果については、必ず職員が根拠や妥当性を確認し、最終的な意思決定は責任を持って人間が行います。

ルール 6

AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、その旨を明記

内容を確認した後、翻訳文や要約文等、AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、「AIにより作成」と記載し、生成された文章がAI によるものか人間によるものかをわかるように活用します。

5 有効なプロンプトの入力方法

①役割の明記

• 「あなたは小海町役場職員です」 等

②具体的、明確な指示

• 「〇〇について」ではなく、「〇〇について、△△の観点から説明して」 等

③#のような記号で区切る

• #背景#指示#内容#目指すべきゴール 等

④成果物のイメージを明記

• 「中学生に分かりやすいように説明して」 等

⑤出力の形式の指示

• 箇条書き、表形式、図表など希望する形式を明確に指示

⑥条件がある場合は指示

• 「小海町の町民に対して広報」、「アイデアを5つ提示して」、「出典を記載」 等

⑦1度のプロンプトで最適な回答を得ようとせず、
繰り返し要望を伝えながら、回答の精度を高める

⑧追加情報が必要か、AIに聞き返してもらう

• 「追加で必要な情報ある」、「不明な点は必ず質問して」 等

6 AIを利用可能な業務の範囲

- ① 文章の要約、翻訳、または平易な表現への書き換え
- ② 挨拶文、メール文、町ホームページ掲載用文書等の素案作成
- ③ 文章の校正・改善
- ④ 公開情報の整理・表形式への変換
- ⑤ アイデアの着想・発展
- ⑥ Excelマクロ等のプログラムの作成・修正
- ⑦ 庁内事務手続きの確認などの素案作成
- ⑧ データ分析
- ⑨ その他、業務の効率化および行政サービス向上に資する業務

7 今後の取り組み

AI 導入後も、継続的に業務における効果の検証や教育・研修を実施し、利用環境の改善や正しく安全な活用につなげていきます。

また、他部署や他自治体での好事例の情報収集や発信により、各部署における積極的な活用を支援し、AIのさらなる活用についても検討し、町民生活の質の向上や行政サービスの充実につなげていきます。

(協力) PwCコンサルティング合同会社